

学生の衣生活に関するライフスタイル (第2報)

——購買行動について——

早坂美代子・原田 妙子

Life Styles and Clothing Habbits of the College Students (II)

The Process of Getting their Clothes

Miyoko HAYASAKA and Taeko HARADA

緒 言

第1報では、衣生活におけるライフスタイルについて、ファッションの多様化、個性化の傾向が強まる中で、学生達がどの程度関心を持っているか、ファッション情報は何かから得ているか、また、流行の取り入れ方の度合い、TPOによる服装など着装面での意識についての概要¹⁾を把握することができたので、本報では衣服の購買行動の実態について調査を行い、考察を試みた。

方 法

調査対象、調査時期、調査方法については、第1報と同様である。

調査内容は、表1に示すよう洋服の購入場所、購入時期、購入時のポイント、被服費、服種別の所持枚数等の項目である。

集計および分析方法は第1報同様、調査データを項目別に単純集計およびクロス集計し、学年、クラス別による特性を明らかにする。

結果および考察

1. 単純集計結果

(1) 洋服の購入場所 (表2)

洋服の購入場所については、クラス、学年の差はほとんど見られず、専門店が約80%、百貨店が約70%で高率を占め、量販店はわずか5%と低くなっている。これは、ブランド商品を扱っている専門店に押され、一時は百貨店離れの著しかったヤング層も、最近では百貨店が洋服だけでなく、靴、小物にまでわたりコーディネートされた商品を揃え、魅力あるディスプレイによって店の個性を出しているため、ここでの購入が意外に多いものと推察される。

「購入する店を決めているか」の問いに対しては、表2に示すよう「決めていない」と答えた学生の方が多く、「決めている」学生は2年食物コースの38.7%、2年服飾デザインクラス37.5%、次に2年被服科学クラス27.6%の順で各クラスとも1年次に比較して2年次の方が高率を示している。これは、専門店別にどんな商品を扱っているかと言う知識が高く、自分の個性、好みに合わせて店を選択し、決めているものと思われる。

表1 調査内容

3 洋服の購入について		(6) ハーケンセールはよく利用しますか。	
(1) どのような所で洋服を購入しますか。	ア 百貨店 イ 専門店 ウ 量販店 エ その他	ア 非常によく利用する イ やや利用する ウ あまり利用しない エ 利用しない	
(2) 決まった店がありますか。	ア ある イ ない	(7) 何を基準に考えて購入しますか。 (4つ以内を選び、順位をつけて下さい。)	ア テサイン カ 機能性 イ 色 キ サイズ ウ 縫製 ク 組み合わせ エ 素材 ケ その他 オ 価格
(3) 洋服をいつ購入しますか。	ア 必要に応じて イ シーズンの変わり目に ウ 欲しい時にいつでも エ お金が入った時 オ その他	4 次の服種の所持枚数は、とのくらいてすか。	
(4) 春夏1シーズンにかけた被服費はとれくらいてすか。	ア 決まった小遣いから イ 特別に被服費としてもらった中から ウ アルバイト代から エ その他	(1) ワンピース (2) スカート (3) ブラウス (4) セーター (5) パンツ (6) シャケント	ア なし イ 1枚 ウ 2~5枚 エ 6~10枚 オ 11枚~
(5) 被服費はどこから出しますか。	ア 決まった小遣いから イ 特別に被服費としてもらった中から ウ アルバイト代から エ その他		

(2) 被服購入の時期

被服購入の時期については、クラス、学年の差は特に見られず、「必要に応じて購入する」が最も多く61.3%、次に「欲しいと思った時に購入する」が32.1%、続いて「お金が入った時購入する」の29%の順となっている。

表2 洋服の購入場所について

(%)

項目	クラス	クラス						合計
		2服	1服	2被	1被	2食	1食	
購入場所	百貨店	68.2	65.2	82.7	75.3	70.7	60.4	70.4
	専門店	88.6	78.7	78.6	69.9	74.7	72.5	77.4
	量販店	1.1	3.4	4.1	8.2	1.3	2.2	5.1
	その他	0	4.5	0	0	0	0	0.8
決まった店がある		37.5	22.5	27.6	17.8	38.7	24.2	28.0
ない		62.5	77.5	72.4	82.2	61.3	75.8	72.0

※各クラスの有効回答数を100%とする

(3) 被服費

図1は春夏1シーズンにかけた被服費のクラス、学年別単純集計の結果である。

「2~5万円」が比較的多く、1年食物コースが63.7%と高く、次に2年食物コース48%、1年被服科学クラス45.2%、1年服飾デザインクラス40.8%となっているが、2年服飾デザインクラスでは「5~10万円」が39.8%と多く「2~5万円」では37.5%となっている。また、11万円以上でも服飾デザインクラスは1・2年とも8%を示しており、他のクラスに比較して被服費に多くかけているが、専門店での既製服購入費に加え、被服構成実習における製作物の費用が加算されているものと思われる。 χ^2 検定の結果、危険率0.5%で各クラスに有意な差がみられた。

次に「被服費はどこからだしているか」を表3に示す。

クラス、学年の差はほとんど見られず、「決められた小遣いの中から出す」と答えた学生は

28.2%と低いのに対して、「被服費として特別に親・兄弟からもらう」が42.8%、「アルバイトで得たお金から」と答えた学生が64%と多くなっており、現代の社会現象を反映した学生の生活状態を見ることができる。

(4) バーゲンセールの利用 (図2)

バーゲンセールの利用については、特にクラス、学年の差異はなく約87%の学生が「時々利用している」と答えている。

(5) 購入の選択基準

被服を購入する際の選択基準について、アンケート設問ア～ケの8項目の中から1～4位までを選ばせた。クラス、学年別の結果を図3に示す。4位までの合計結果では、危険率0.5%で各クラスに有意な差がみられている。

まず、「デザイン」については、服飾デザインクラスは1・2年とも約70%が1位に挙げており、次に2年食物コース62.7%、続いて2年被服科学クラス53.1%の順であり、2位ではクラス、学年の差はあまり見られないが約25%を示し、4位までの中に約90%以上の学生が選んでおり、全体を通して高率を占めている。

次に「色」については、2位に選んだ学生が比較的多く、2年服飾デザインクラス44.3%、1年服飾デザインクラス34.8%、1年食物コース34%、1年被服科学クラス33%と続き、次は3位に挙げている人が多く、約27%とクラス、学年の差は見られない。

「価格」については、4位に挙げている学生が多く見られ、特にクラス、学年の差もなく、約33%を占め、続いて3位は約23%となっているが、1～4位までの全体を通して見ると約80%の高率を占めている。

「素材」についても、4位に挙げている学生が多く、2年服飾デザインクラス29.5%、2年被服科学クラス24.5%、次に2年食物コースが18.7%を示し、その他のクラスは約14%と低く

表3 被服費はどこから出しているか (%)

項目 \ クラス	2服	1服	2被	1被	2食	1食	合計
アルバイトで得たお金から	72.7	61.8	60.2	52.1	78.7	59.3	64.0
被服費として特別にもらう	45.5	47.2	42.9	53.4	24.0	42.9	42.8
決まった小遣いの中から出す	31.8	28.1	31.6	28.8	24.0	24.2	28.2
その他	2.3	0	1.0	1.4	0	4.4	1.6

※各クラスの有効回答数を100%とする

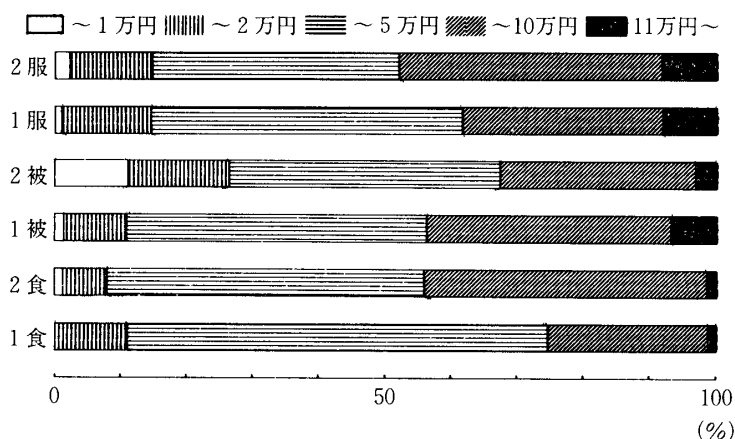


図1 春夏1シーズンにかけた被服費

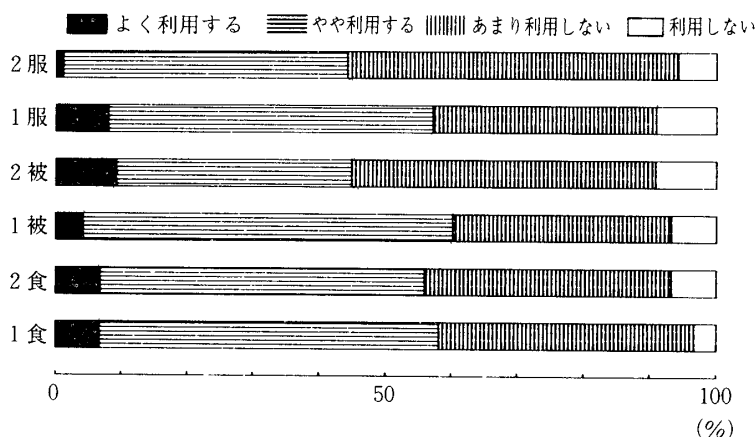


図2 バーゲンセールの利用状況

なっている。

「サイズ」については、1位に挙げているのが1年食物コースの35.2%が高く、次に2年被服科学クラス28.6%、1年被服科学クラス26%であり、次は3位に挙げているクラスが多く、1年服飾デザインクラスの24.7%が高く、1年被服科学クラス、2年被服科学クラスと続いている。全体を通し、1～4位までにあげている率は、2年服飾デザインクラスの36%を除き、その他のクラスでは、約65%を占めている。

「組み合わせ」については、全体に低く、中では1年被服科学クラスが他クラスに比較して、1～4位で48%を占めているが、全クラスを見ても3位、4位の順位で選択している。

「縫製」では、1位にあげる学生は皆無であり、4位でもわずか2.5%と極めて低率となっている。

「機能性」については、縫製と同様極めて低率を示している。

以上、被服購入時の選択のポイントとしては、デザイン・色等の感覚的で個性的な審美面を重視しており、着やすい機能性、手持ちの洋服との組み合わせ、着くずれしない素材、しっかりした縫製、体型にあったサイズなどの実用性については、あまり気にしていないようである。

(6) 服種別所持枚数

表4は、服種別所持枚数のクラス、学年別集計結果を示すものである。

ワンピースは、学年、クラスを問わず2～5枚を所持している人が圧倒的に多く約66%を占め、6

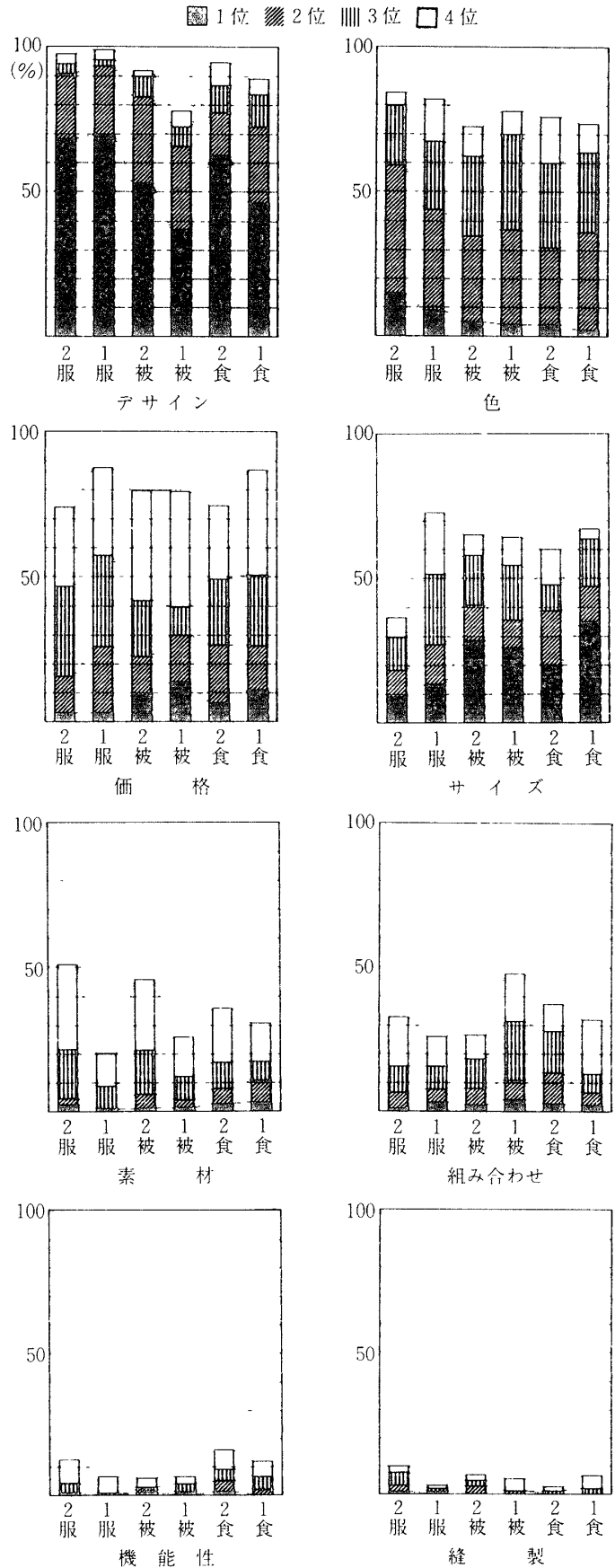


図3 購入時の選択基準

表4 所持枚数 (%)

服種	枚数	2服	1服	2被	1被	2食	1食	合計
ワンピース	0	3.4	6.7	13.3	9.6	5.3	14.3	8.9
	1	12.5	12.4	22.4	23.3	13.3	20.9	17.5
	2~5	68.2	70.8	60.2	63.0	76.0	60.4	66.1
	6~10	15.9	9.0	4.1	2.7	5.3	4.4	7.0
	11~	0	1.1	0	1.4	0	0	0.4
スカート	1	0	1.1	0	0	0	1.1	0.4
	2~5	29.5	21.3	34.7	28.8	25.3	18.7	26.5
	6~10	58.0	62.9	57.1	52.1	56.0	62.6	58.4
	11~	12.5	14.6	8.2	19.2	18.7	17.6	14.8
ブラウス	0	0	0	1.0	1.4	0	0	0.4
	1	0	0	1.0	2.7	0	2.2	1.0
	2~5	37.5	31.5	51.0	28.8	41.3	42.9	39.5
	6~10	45.5	58.4	38.8	57.5	48.0	37.4	46.9
	11~	17.0	10.1	8.2	9.6	10.7	17.6	12.3
セーター	0	9.1	3.4	5.1	2.7	2.7	1.1	4.1
	1	9.1	12.4	20.4	5.5	5.3	6.6	10.3
	2~5	62.5	65.2	59.2	78.1	64.0	75.8	67.1
	6~10	15.9	18.0	14.3	13.7	28.0	15.4	17.3
	11~	3.4	1.1	1.0	0	0	1.1	1.2
パンツ	0	8.0	3.4	3.1	2.7	8.0	2.2	4.5
	1	10.2	5.6	14.3	5.5	12.0	15.4	10.7
	2~5	62.5	57.3	69.4	84.9	68.0	62.6	66.9
	6~10	17.0	30.3	11.2	6.8	12.0	17.6	16.1
	11~	2.3	3.4	2.0	0	0	2.2	1.8
ジャケット	0	1.1	7.9	3.1	11.0	6.7	4.4	5.4
	1	14.8	19.1	36.7	17.8	16.0	19.8	20.6
	2~5	76.1	67.4	60.2	69.9	74.7	73.6	70.0
	6~10	8.0	5.6	0	1.4	2.7	1.1	3.7
	11~	0	0	0	0	0	1.1	0.2

※各クラスの有効回答数を100%とする

~10枚では2年服飾デザインクラスが15.9%と多く、1年服飾デザインクラスが9%となっている。

スカートの所持枚数は、6~10枚が最も多く、次に2~5枚となっており、クラスによる差は見られないが、ブラウスについては、6~10枚が1・2年服飾デザインクラス、1年被服科学クラス、2年食物コースに多く見られ、2~5枚では2年被服科学クラス、2年食物コース、1年食物コースに多く見られた。

セーターは春夏のためか、2~5枚持っている人が最も多く、クラスの差はあまり見られない。

パンツも2~5枚が多く、1年被服科学クラスの84.9%が高率を示し、他のクラスでも60~70%となっており、1年服飾デザインクラスでは6~10枚が約30%を占め、ジャケットについても2~5枚が多く、特にクラス別に差はない。

ワンピースを所持していない学生が意外に多く、単品物のブラウス、スカートが多いのは、組み合わせの変化により広範囲に着装が楽しめる点と、機能的であるため通学着としては、最適の服装であると思われるため、選択基準としては挙がってこなかった「組み合わせ」や「機能性」が、特に意識していなくても1位であった「デザイン」の中で考えられているようである。

2. クロス集計結果

(1) 服種別所持枚数と洋服購入時の選択基準

服種別所持枚数と洋服購入時の選択基準との関係を見ると、どの学年、クラスにおいても服種および所持枚数にかかわらず、デザイン、色、価格の順で上位に選択している。その他の項目についてみると、2年服飾デザインクラスでは、服種を問わず所持枚数が多いが、他のクラ

スに比較し、素材を重視し購入しており、中でもワンピース、ブラウス、パンツにその傾向が強く現れている。1年服飾デザインクラスは、各服種・所持枚数を問わず価格と組み合わせに購入ポイントをおいている。被服科学クラスでは、1・2年とも服種・所持枚数を問わずサイズを重視しており、1年被服科学クラスではスカート、パンツ、ジャケットにおいては、所持枚数も比較的多く、組み合わせを考慮し購入している。2年食物コースは、服種、枚数の別なくサイズを重視しているが、1年食物コースでは、ワンピース、スカート、パンツは特にサイズを、ブラウス、スカート、パンツにおいては組み合わせにもポイントをおいて購入しており、服種により特徴が出ている。

以上のことより、所持枚数の多少にかかわらず、2年次では服飾デザインクラスが素材を、被服科学クラスおよび食物コースはサイズを、1年次ではクラスの別なく他の服種との組み合わせを重視して購入しており、クラス、学年による顕著な差が認められた。

(2) 被服費と購入場所

被服購入の場所については、専門店、百貨店がほとんどであったが、1・2年服飾デザインクラス、2年被服科学クラスの被服費11万円以上の学生は、専門店で購入している。ファッションの多様化の中で、特にデザイン、色をポイントに購入する場合、やはりファッション性の高い専門店で、自分の個性、好みに合ったものを選択し、購入する傾向にあることがうかがえる。

(3) 被服費とその出どころ

次に、被服費とその出どころであるが、服飾デザインクラスでは1・2年とも11万円以上と答えた学生は、「アルバイトで」が比較的多いものに対して、被服科学クラスの1・2年では「被服費として特別にもらっている」が多く見られた。また、2万円以下では、「アルバイトで」が少なくなっている。2年食物コースは、2～5万円が最も多く、1年食物コースでは1～2万円が多いが、いずれも「アルバイト」から得ている学生が多く、クラスによって被服費とその出どころに差異のあることが見受けられた。

(4) 被服費と被服購入時の選択基準

表5は被服費と被服購入時の選択基準についてのクロス集計結果である。

被服費の多少に関係なく、購入時の選択基準については、デザイン、色が圧倒的に多く、学年、クラスの差も認められない。

2年服飾デザインクラスでは、被服費2万円以下が価格を非常に考え購入しているが、11万

表5 被服費と購買時の選択基準

基準	被服費	2年服飾デザインクラス					2年被服科学クラス					2年食物コース							
		～1万円	～2万円	～5万円	～10万円	11万円～	合計	～1万円	～2万円	～5万円	～10万円	11万円～	合計	～1万円	～2万円	～5万円	～10万円	11万円～	合計
デザイン		1	11	33	34	7	86	9	12	37	29	3	90	0	5	33	32	1	90
色		1	10	26	33	4	74	9	7	29	24	2	71	1	5	29	21	1	71
価格		1	10	27	25	2	65	10	13	33	20	2	78	1	3	29	22	1	78
サイズ		0	2	16	10	4	32	9	12	24	17	2	64	1	3	22	18	1	64
素材		2	4	12	21	6	45	5	3	19	16	2	45	0	1	12	14	0	45
組み合わせ		0	5	10	11	3	29	4	6	13	3	0	26	1	2	13	12	0	26
機能性		2	1	5	3	0	11	1	2	1	2	0	6	0	1	4	7	0	6
縫製		1	0	3	3	2	9	1	0	2	3	1	7	0	0	0	2	0	7

(単位 人)

円以上ではあまり気にしていないようである。縫製についてはほとんど気にしていないが、11万円以上ではやや考えて購入しており、素材についても11万円以上になると、非常に考えて購入する傾向が大きい。1年服飾デザインクラスでは、被服費の多少に関係なく、価格を重視しており、10万円以下でサイズを、11万円以上では素材を考えて購入しており、2年服飾デザインクラスと同傾向であった。2年被服科学クラスでは、被服費の多少にかかわらず、価格、サイズを重視しており、5～10万円、11万円以上になると他の項目に比較し、素材を考えて購入している。1年被服科学クラスでは、全体では価格を重視している学生が多いが、11万円以上になるとあまり気にしていないようであり、次にサイズを重視している学生が多いが、他のクラスと異なるのは、組み合わせを考慮している点である。2年食物コースでは、被服費の多少に関係なく、価格、サイズを重視しており、次に素材、組み合わせなどにも気を配っている。1年食物コースも価格、サイズの重視については、2年次と同様の傾向が見られるが、素材においては被服費の1万円以下が比較的多く見られる。

要 約

被服費の購買行動について、次のような結果が得られた。

1. 被服の購入場所については、クラス、学年の差はなく、ほとんど専門店、百貨店を利用している。特に購入する店は決めていないが、決めていると答えた学生は、各クラスとも1年次に比較し2年次が多い。
2. 被服購入の時期も、クラス、学年の差はなく、必要に応じていつでも購入しているようであるが、バーゲンセールも時々利用している。
3. 春夏1シーズンにかけた被服費は、全体に2～5万円の人が多いが、2年服飾デザインクラスは、被服構成実習における製作物の費用が加算されているためか、5～10万円が多くなっている。
4. 洋服購入時の選択基準は、デザイン、色等の審美面を重視しており、機能性、縫製等の実用性はあまり考えていないが、被服費の多少によってやや影響されているようである。
5. 服種別所持枚数は、服飾デザインクラス以外はワンピースが比較的少なく、ブラウス、スカートなど単品物で組み合わせの変化が楽しめる服種を多く所持している。

以上の結果から、ファッションに対する関心が非常に高く、購買行動の面からも学生でありまた1人の消費者として、新しいライフスタイルを求めつつあるように見受けられる。この事を踏まえ、今後の被服構成においても、実践的で且つ魅力のある指導法について、研究を続けて行きたいと考えている。

終りにあたり、本調査に協力いただきました本学家政科の諸姉に深く感謝いたします。

文 献

- 1) 早坂美代子, 原田妙子: 名古屋女子大学紀要, 35, 25 (1989)